

書評

理科年表読本「コンピュータグラフィックス日本列島の地質CD-ROM版」

産業技術総合研究所地質調査総合センター監修  
日本列島の地質編集委員会編集  
丸善株式会社  
CD-ROM 1枚, 取扱説明書1冊  
定価5,800円(税抜き)

本書は、最近はやりのマルチディシプリナリーな資料満載の書である。前書きにもあるように1996年にデジタル時代の代表作とも言える「コンピュータグラフィックス日本列島の地質」のCD-ROM版第二作であるが、ファンにとっては待望の改定版となった。第一版は残念ながら一部のハードウェアに限られており、搭載のプログラムも厳しい稼働条件でお手軽なデジタルファイルには今一步であったからである。

本版の特長は、Windows, Mac, UNIX等のようなOSでも閲覧可能なWebブラウザを用いたCD本であり、使い方もいたって簡単である。Internet ExplorerやNetscapeなどに“index.html”ファイルをドラグドロップすると、日本語、英語の選択ができ、目次の一覧が表示され、どの項目にもアクセスしたくなるような興味深いタイトルが並ぶ。高校生～大学生向け、そして一般教養として日本列島の地質、成り立ちなどに興味のある方はもちろん、地球科学の研究者にとっても分かりやすい解説付きで、楽しく眺めることができよう。本書は、美しいカラーパレットを利用した画像が多く収録され、同時に英文版へも自由にアクセスができ、身近な地球科学双書として座右の書となるであろう。

一つのCD-ROM内に幅広く日本の地史から地質構造、重力、地磁気、地震活動、活断層、火山、熱構造、温泉といった固体地球物理学の特徴がコンパクトにまとめられている。さらに、各図に於いては印刷出力を考慮した高解像度の図も用意されており、論文中での図の引用など幅広い利用方法が考えられる。しかも、地名図、索引図、地質凡例も

同時に眺めることができる、まさに痒い所に手が届いた編集が成されている。今やパソコンが一家に一台から、一人に一台いや数台もの普及を遂げ、お茶の間でも電車の中でも、このCD-ROM一枚あれば日本列島の概要を知ることができる。海外からの研究者の来訪を受けて、日本周辺の地誌の説明や地球物理学的特徴の解説に悩まれた方も多いのではないだろうか、本書があれば、大いに役立つであろう。

地球物理学は、いまや、宇宙探査、気象通信衛星、海洋開発、各種観測機器、計算機類のハードウェア、ソフトウェアの目覚ましい進展や新技術の導入等によって、より魅力的でモダンな学問体系として生まれ変わっている。第4章では、地球物理学のセンサーがはじき出した日本国内各地の最新情報にも触れることができる。世界初の深部掘削のターゲットとして注目される南海トラフの地形や地震波反射構造、付加体の3次元構造の動画も目新しい。資源エネルギーを貯えた海域としての視点も忘れてはいない。火山、地震災害編では、動的な変動場としての日本列島を再確認できるであろう。平易な解説でありながらも、最先端の研究結果が盛り込まれていて、日本列島の地質を理解するためにクリックしはじめると、地球科学の奥の深さにも触れることができよう。そのような意味で高校や大学教養の教育現場での資料としても普及することが期待される。

多岐に渡った記載で発散しがちな内容を2つのプログラム、GeomapHとSeisWinを搭載することによって、計算機科学と切っても切り離せないデジタル地球科学資料をうまくまとめた感がある。両者のプログラムは、統合解釈の際に基本図となる地質属性の検索と地震活動の時空間解析が可能である。本システムを提供することにより、ダイナミックで重みのある新時代マルチメディア資料となった。本邦が誇れる一冊である。本書から地球科学の門戸をたたき多く生まれるであろう。

木戸(仲佐)ゆかり(海洋科学技術センター)